

日本の未来を見据えて撃つ！

そんなあなたにホットな話題をお送りする

最先端オピニオン紙

日本シテイジャーナル

発行: ネットハウス

〒286-0825 千葉県成田市新泉 14-3

TEL 0476-89-2333 FAX 0476-89-2334
[平日: 10:00~19:00 土曜: 12:00~17:00]

<http://www.nihoncity.com>

成田市、佐倉市、印西市、富里市、香取市、山武市、船橋市

千葉市(花見川区、美浜区)、習志野市、八千代市、四街道市
酒々井町、栄町、小林、安食、多古町、横芝光町、芝山町、神崎町

發行部數：500,000部

先行部数：500,000部

発行部数：500,000部

邪馬台国への道のり

奈多宮神社が証する佐田岬経由の旅路の行き先とは

末盧国から不弥国までの陸行については、史書に記載されているとおりの道のりを、難なく見出すことができました。末盧国の比定地にあたる鐘崎・宗像から伊都国の八幡、奴国の小倉北へと東南方向に旅を続け、最後には東海岸沿いの不弥国へ向かい、鶯ヶ巣山の麓にある周防灘を臨む港に辿り着きます。そこは北九州と他の島々を結ぶ交通の要所でもあり、その港から再び舟で南下し、綿都美神社の2重鳥居が示す137度の方向を目指して進みます。そして宇佐を流れる駅館川沿い内进行陸に向かうと、秦氏の本拠地である八幡宮の総本社、宇佐神宮周辺に至ります。

旅人が宇佐神宮を經由する理由

邪馬台国への旅路の途中、宇佐の聖地に一日立ち寄ることが古代の旅人にとって重要であった理由は何でしょうか。日本書紀には神武天皇が東征する際に、まず「菟狭の川のほとり」に立ち寄ったことが記載されています。それ程、宇佐の歴史は古くまで遡り、当時から特筆すべき場所であったのです。そして宇佐はいつしか聖地としての名声を博し、列島に渡来した秦氏は宇佐を自らの一大拠点とするべく、そこに宇佐八幡宮を造営して、全国八幡宮の総本山としました。その後も渡来系の民の中には宇佐を目指す者が多く現れ、5世紀末には、新羅系の渡来集団の中心となった辛嶋氏も満を持して朝鮮半島より渡来し、周防灘から宇佐平野の西部に到達して辛国を設立しました。秦氏と同族であり、スサノオ命を祖神とした辛嶋氏は筑紫国に渡来した後、イタケル(筑紫国の子)を祀り、豊前国春香岳では新羅神を祀り、その後、豊国を経

て宇佐に入ったのです。そして最終的に、辛嶋氏の活動の拠点が豊前国宇佐郡辛嶋郷となったことを「辛嶋勝生系図」から知ることができます。秦氏一族にとって宇佐とは、他に譲ることのできない神聖な地であったのです。

それ程までに、古代より宇佐が重要な聖地であった理由が、国生み神話で知られる淡路島と日本最高峰の富士山の存在に秘められていました。古事記や日本書紀の記述によれば、淡路島から国生みが始まっています。南西諸島から北東方向に連なる多くの列島は、瀬戸内海を過ぎて淡路島まで北上すると、巨大な本州を境にして一連の島々の流れが途絶えます。その大自來の光景を目にした伊弉諾尊一行は、探し求めていた「東の島々」の中心が淡路島であることを悟り、そこから周囲の島々を探索して特定したのが国生み神話の流れです。

そして淡路島では島の聖地として、舟木の丘に石上神社の磐座が見いだされ、そこから四国の霊山である剣山の方角にある淡路島の平坦な地に、誰もが容易に参拝することができる伊弉諾神宮が造営されたと考えられます。その後、伊弉諾神宮を基点として、夏至や冬至の日の出と日の入りに関わる方角を見極めながら、その方角の線上にひとつずつ聖地を見出し、淡路を中心とする新天地の周辺を聖地化して、国全体を清めることに努めたのです。その結果、伊弉諾神宮の北西 300 度上には出雲大社、北東 60 度上には諏訪大社、南東 120 度上には熊野那智大社、そして南西 240 度上には高千穂神社と天岩戸神社の聖地が見いだされ、其々が長い歴史の中で、民の篤い信望を得るようになります。

これらの夏至と冬至の線上にある聖地とは別に、古代人が注目したのが日本列島における最高峰の富士山です。圧倒的な標高を誇る富士山は、古代から揺るぎなき靈山として認識されたことでしょう。そして出雲大社には熊野那智大社が、諏訪大社に対しては高千穂神社と天岩戸神社が、伊弉諾神宮を中心とした相対する聖地として選別されたように、生粋の靈山として認知された富士山に相対する聖地として、伊弉諾神宮の西側に宇佐の地が特定されたのです。地図上で富士山の頂上から伊弉諾神宮を経由して直線を引くと、見事に宇佐神宮にあたるのがわかります。これは単なる偶然ではなく、綿密に計測した上で、宇佐の場所が選別されたからに他なりません。また、伊弉諾神宮の距離は富士山から368km、宇佐神宮から338kmであり、距離的にもほぼ一致しています。同一の距離でない理由は、368kmの地点が山奥の山上に位置していたために、あえてその手前の平地で、川のほとりに近い現在の宇佐神宮の地を、富士山から伊弉諾神宮を結ぶ線上に選んだのでしょう。

伊弉諾神宮を中心として日本全体を網羅する聖地の一つに数えられた宇佐は、富士山と伊弉諾神宮の線上に直結し、最高峰の霊山の流れを汲む聖地の役割を果たす一大ファーストポイントとして、秦氏らの篤い信仰を得ることになったのです。こうして宇佐神宮には多くの崇拜者が集まるようになり、貴重な聖地となったのです。邪馬台国へ向かう途中、まず宇佐を訪れてから国東半島の方へ旅を続ける理由は、国生み神話の中に隠れていたのです。

投馬国の候補地を考察する 3つの鍵

(不弥国から)南へ水行 20 日
進むと投馬国に到着する…五万
余戸の人家がある。

さて、投馬国の比定地については、その主だった候補地だけでも数十か所に及んでいます。九州だけでも熊本県の玉名と当麻、鹿児島県の高城郡托摩と都万郷、宮崎の都萬、福岡県の上妻や下妻と豊前、豊後、そして大分の五馬、等が挙げられます。そして山陽、山陰地方では、出雲や兵庫県北部の但馬、瀬戸内海側では山口県の玉祖、広島県の鞆、岡山県の玉野が名を連ね、更に東方に至っては、兵庫県の須磨などが候補地として挙げられてきました。広島県の鞆(とも)町と兵庫県の須磨の浦は、双方が新井白石によって提言されましたが、いずれも結論を出すことが難しかったことがわかります。これら比定地の殆どは、投馬国の名前が「トウマ」、もしくは「トゥマ」と読まれるという前提から、その発音に似た地名を持つ場所が候補地として挙げられています。これ程までに意見の分かれる投馬国の比定地ですが、その場所を特定する手立てはあるのでしょうか。

史書の記述を頼りに、投馬国の比定地を見出す鍵は3つあります。まず大事なことは、投馬国の地が、不弥国から舟で20日間という長い時間をかけて航海し、到達する地点であるということ。それ故、北九州防衛灘以外の港から20日間という日数をかけて辿り着ける距離にある地域を、まず探索する訳です。古代の様々な航海条件を想定すると、1日の平均渡航距離は15km程度になることは前述したとおりです。すると20日間では、およそ300kmの渡航距離に換算され、それが一つの目安になります。その300kmという距離を基準に、到達地点の候補を考えてみました。

周防灘に面する不弥国から海岸線沿いを南方向に辿り、国東半島を過ぎた後も、別府湾を経由して更に南下し続けたと仮定すると、宮崎県延岡周辺の北部平野部までの距離は約 260km、日向市までが 280km、宮崎平野北部までの渡航距離は約 320km となります。実際の渡航距離と、それにかかる日数は天候などの諸事情に大きく左右され、岬の先から次の岬へと航海し、大きな湾を長距離に横切る

こともあることから、航海路と実日数の想定は、あくまで大きな目安として考えることが賢明でしょう。いずれにせよ、九州の東海岸沿いを南へと航海し続けるという前提で考えるならば、延岡から宮崎平野周辺の地域が20日の水行にて到達できる渡航距離の範疇となり、投馬国の候補地となり得るのです。また、国東半島から伊予灘を渡り、四国佐田岬へ向かうという想定も可能であり、岬の北側を東方向に進めば、およそ250kmで松山港。そして300kmで今治平野に到達します。また、佐田岬より南方面へ向かったとするならば、およそ300kmで四万十まで到達します。これらの地域が、距離のデータから推察することができ、投馬国の候補地となります。

次に、投馬国が「五万余戸」という大変多い家屋を建造することができる程、広大な地域にあるということを念頭に、候補地を絞り込みます。元来倭国とは、「山や島によって国や村をつくっている」と魏志倭人伝に記事された、百余の国々に分かれていました。その後、魏の時代では30国が諸外国に知られるようになります。これらの国々は、小さな島単位で国を形成しているものもあれば、九州や四国などの大きな島では、舟の行き来をする際に、停泊できる港の周辺の平野部が成長したものも含まれていたことでしょう。また、山の地の利を活かし、山や上、時には山地に囲まれた盆地にも国が作られていたのです。そして「五万余戸」という数字を見る限り、その世帯数から国の人口は少なくとも20万人以上と想定されるだけに、それだけの人口を抱えて国家を成立させるだけの広大な平野が、舟で渡航できる海岸沿いになければならないのです。それらの条件を満たす場所は限られており、西日本の航空地図を参照すれば一目瞭然です。それらは九州東海岸沿いでは延岡平野と宮崎平野、四国では松山と伊予を囲む道後平野、及び瀬戸内海沿いの今治平野、そして四国最南端の四万十です。つまり投馬国の候補地は、これらの平野のいずれかであると考えられます。

四国の四万十については、広大な河川口が太平洋に向けて広がる美しい風景が有名です。しかしながら、500m前後の川幅を誇る広大な川の流れが、河川口から5km以上も内陸に続いて

次頁に続く



けました。そこは邪馬台国への旅路において、九州と四国を行き来する際の橋渡しとなる伊予灘西側の重要拠点であり、その鳥居が佐田岬から訪れる舟の目印となっただけでなく、その倉庫は貴重な神寶物や大切な文化財、重要な資料を一時的に保管するための嚮として、重要な位置を占めたのでした。そしてこの宝蔵庫は航海上の利便性を考えた上で、あえて神宝や物の移動に便利な海岸沿いに造営されたことになったのです。これが、奈多宮神社が「海沿いの正倉院」と呼ばれるようになった所以です。

投馬国とは2つの岬に象徴される国

佐田岬を経由して投馬国へと向かう旅路の選択肢は、既に四十万方面が否定されたことから、もはや四国の今治平野周辺しか残されていない。しかしながら、この今治こそ、史書の記述内容に合致する邪馬台国への旅路の途中にある投馬国の場所であることがわかります。

まず今治は、不弥国の比定地となる周防灘沿いの北九州海外から古代の舟で、およそ20日かけて航海する距離の範囲となる約275kmの地点にあります。また、旅の出発点である帯方郡から見て東南の方角にあることからしても、史書の記述と合致しています。そして今治平野の大きさは、5万戸の家屋を有するに十分な広さがあり、集落が適度に発展しやすい土地柄を誇ります。更に今治は瀬戸内海という、古代から東西を結ぶ主要な回廊に面し、その近隣に浮かぶ瀬戸内海中中部地域の島々の山頂周辺には、弥生時代に発展した多くの高地性集落が見つっています。つまり古くから人と物の流れが今治周辺の海域に存在し、渡航ル

トが出来上がっていたのです。そしてそれらの島々を見渡す位置にある今治の北部、高縄半島の丘上には古墳時代前期に造営されたと考えられている全長80mにも及ぶ大型の前方後円墳、相の谷1号墳があります。このような大型古墳の存在は、古代よりその地域に大規模な集落を持つ国が存在し、王とも呼ばれるべき有力者が今治を統治していた時代があった可能性が高いことを裏付ける史跡として考えられます。

特に注目すべきは、投馬国のアイヌ語における意味が、その周辺の地形と見事に一致することです。「投馬」という地名は魏志倭人伝が書かれたとされる三世紀の時代、どのように発音していたのでしょうか。中国語の歴史において、周から前漢までの前256年頃までは「上古中国語」が使われ、その後、後漢から唐の時代までの時代には、「中古中国語」が使われました。日本に関する記述が含まれる史書の数々は、これらの時代をまたがって編纂されているだけでなく、中国という広大な土地柄故、その地域によっても発音が大きく異なることが想定され、一概に地名の発音を特定することは難しいかもしれません。しかしながら、魏志倭人伝の編者である陳寿(233-297)は、魏の都が220年に洛陽に移った後、晋朝において仕え、5万戸の家屋を有するに十分な広さがあり、集落が適度に発展しやすい土地柄を誇ります。更に今治は瀬戸内海という、古代から東西を結ぶ主要な回廊に面し、その近隣に浮かぶ瀬戸内海中中部地域の島々の山頂周辺には、弥生時代に発展した多くの高地性集落が見つっています。つまり古くから人と物の流れが今治周辺の海域に存在し、渡航ル

陽を中心として多くの功績を残しました。左思が書いた「三都賦」は、洛陽界隈の多くの人によって書き写されたことから紙の価格が高騰し、「洛陽の紙価を高める」という言葉が生まれた程、洛陽は文化の中心であったと言えます。

これらの背景を総合的に考えると、陳寿が読み書きした中国語は、洛陽の都を背景とした洛陽音を用いていた可能性が極めて高いと言えます。陳寿が洛陽音を用いたと仮定するならば、「投馬」の発音はおそらく「トゥマ」、「トゥマ」もしくは「ツウマ」、「トゥマ」と聞こえたとも考えられます。投馬国の比定地を考察するにあたり、これらの発音に類似した日本語の地名を探し求めて、それを候補地として検討する訳ですが、古代の日本の地名はまず、アイヌ語でその発音に類似した言葉があるかどうかを見極めることが大事です。すると「トゥマ」という発音に極めて類似したアイヌ語が存在することがわかります。それが「Tuma」です。アイヌ語で「トゥ」は2つ、「マ」は半島の意味を持つ言葉でもあることから、「トゥマ」は「2つの半島」を意味することになります。

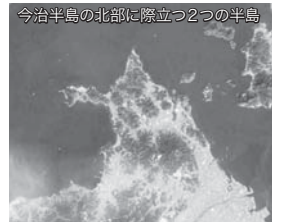
さて、今治平野は四国の北西に位置しますが、その平野部の北部には、地図を見ても一見して明らかなように、今治を象徴する半島が北側の先端に2つ並んでいます。今治平野にはこれら2つの大きな半島が隣接し、それが地域の目印となっていることに疑いはないことから、今治は正に「2つの半島」という名前では呼ばれるにふさわしい自然の姿を映し出しているのです。それ故、遠い昔から日本に住む土着のアイヌの人々は、今治周辺を「トゥマ」、もしくは「ドゥマ」、「2つの半島がある国」と呼んでい

たのではないのでしょうか。これらを総合的に考えると、投馬国の比定地が今治であるという推論が、にわかに現実味を帯びてきます。「投馬」の国名は、アイヌ語の地名が古代社会において九州や四国の地名に用いられている一例となる優れた事例であり、他の地名についても、今後の再検証を促す根拠となりそうです。

佐田岬経由で往来する理由

投馬国の比定地を今治とした場合、何故、もっと距離の短い山口県側の海岸に沿って渡航しないのか、という素朴な疑問が湧いてきます。山口県の瀬戸内海沿いから屋代島近辺を通って今治まで行くと、全行程は約230kmとなり、国東半島を経由するよりもおよそ45kmも短い距離で目的地に到達できるのです。それでも古代の旅人にとっては、国東半島を経由して四国に渡ることが重要であり、また、瀬戸内海から九州方面に行く際も、四国今治から伊予、佐田岬を経由して九州に到達することが多かったのです。その理由として、以下の2点は注目に値します。

まず、宇佐八幡宮の重要性については前述した通り、邪馬台国へ行く旅の途中にある西日本の聖地であり、秦氏の一大拠点でもあるが故、宇佐に停泊して神の宮を参拝することは、極めて重要な旅の要素でした。また、宇佐八幡宮に立ち寄るということは、その後、瀬戸内海方面に渡るとするならば、奈多宮神社まで足を延ばすこととなります。そこには宇佐八幡宮の宝蔵庫があることから、特に舟に搭載する荷物の量が多かった場合、九州四国間を頻繁に行き来すること等を考えると、保管倉庫となる海正倉院が存在することからしても、大変便



今治半島の北部に際立つ2つの半島

利でした。それ故、奈多宮を拠点として、佐田岬との間を行き来することは理にかなうことでした。

もう一つの理由は「伊予国風土記」の逸文から学ぶことができます。四国松山近くにある伊予の湯は、古代から病の治療に驚異的な効果をもつ名泉として知られていました。その効能故に、景行天皇、仲哀天皇と神功皇后、聖徳太子をはじめ、天智天皇や天武天皇ら、大勢の天皇が伊予の湯を訪れていたことが伝えられています。その「伊予国風土記」には、天皇の一行が朝鮮半島等の政治情勢を見極めるために北九州に向かう際には、その途中で伊予の湯へ行き幸し、癒しの力を受けていたことが明記されています。それは聖徳太子の伊予灘波の碑文に「神の井に泳みて疹を癒す」と書いてある通りです。つまり、瀬戸内海を渡って九州に行く際には、まず伊予の湯につかり、そこから佐田岬を経由して宇佐に参り、北九州へと向かったのです。およそ275kmに及ぶ不弥国から投馬国への航海路ではありますが、宇佐神宮を参拝し、奈多宮にて文化財を保管し、伊予の湯に浴びることができることを考えると、50km前後の渡航距離の延長は何ら、苦にはならなかったことでしょう。邪馬台国への道のりは、まだ続きます。(文中島名等)

連載中の歴史コラムは随時更新して
<http://www.history.jp.com/>
に掲載しています。是非ご覧下さい。

成田市 社 営・コールセンタースタッフ ○物流倉庫管理スタッフ ☆その他の職種も同時募集中

業績好調につき社員・パート大募集!! 楽器・音響機器のネット通販で国内トップ!



① 営業スタッフ

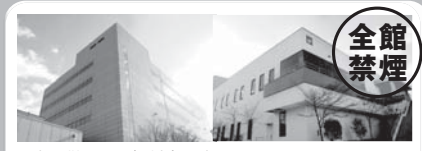
お客様からの注文や問合せに、電話やメールで対応します。楽器・音響機器に興味がある方、知識を深めたい方、音楽好きな方、大歓迎! *タイピングスキル必須

② 物流倉庫管理スタッフ

新たな人材を20名募集します! 未経験者も多数活躍中! 最新の物流システムを導入。倉庫内の整理、出荷する商品のピッキング・梱包、また、商品の入出庫管理と通関業務を行います。
*フォークリフトの経験者、中型・大型免許取得者歓迎

正社員	月給21万円~ <管理職>月給35万円~
パート・アルバイト	時給1,000円~

【時間】①平日 9:00-19:00(休憩1H)/土曜日 11:00-17:00等
②平日・土曜日 7:00-17:00(休憩1H) ※早朝出勤、残業あり
【休日】日祝日、隔週土曜、年末年始休暇、有給休暇
【待遇】社保完備、超過勤務手当、2回賞与、昇給4回機会等 ほか
※入社時期等は希望を考慮して決定します。



- 車通勤OK! : 無料大駐車場あり
- 社宅: ライオンズマンション/一戸建て社宅(家族・独身)あり
- 社内カイロプラクティック: 週一回一流施術師のマッサージあり
- 医療費援助: お子さんが高校卒業するまでの医療費を会社が負担
- 天然温泉無料優待: 社員の家族も一緒に無料で利用できる!
- スポーツ活動支援: フットサル、テニス等のサークルを支援
- その他...社内フィットネスジム、社員食堂、海外研修(アメリカ、ドイツ、中国、東南アジア)あり

ご応募お待ちしております♪

応募はホームページから、
もしくは履歴書を郵送してください

国内最大規模の楽器・音響機器販売会社
株式会社 **サウンドハウス**

お問合せ job@soundhouse.co.jp

Tel:0476-89-1777 (担当:採用係)

<http://guide.soundhouse.co.jp/kaisya/saiyou.asp>
〒286-0825 千葉県成田市新泉14-3 (野毛平工業団地内)

成田フルメNAVI

第86回

本格的なタイ料理が堪能できる店
バーン・プータイ

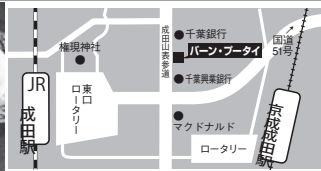
秋の長雨が続きとある日の夕刻、スパイシーで気が晴れるようなエスニック料理が食べたくなり、成田山参道沿いのタイ料理店「バーン・プータイ」を訪れてみた。成田駅を出てすぐの場所にあり、立地は抜群。店舗はこじんまりとして、一見、屋台小屋のようなではあるが、木材をベースにした店内は清潔感があり好感が持てる。メニューを見ると、お得なディナーセットメ

ニューがオススメとのこと。6つあるセットのうち5つまでがなんと1,000円という嬉しいプライス。今回はパッタイ(タイ焼きそば)と揚げ春巻きセット、そしてトムヤムクンと鶏のバジル炒め、ライスのセットをオーダー。パッタイは米粉の平麺に干しエビ、ピーナツ、ニラが入った本格派。甘辛くシンプルな味で香りも良く、とても美味しい。トムヤムクンはややボリューム不足の感があったが、日本人には丁度良い量と言えるかもしれない。この価格で本格的なタイ料理が味わえるのだから満足度は高い。ゆっくりとくつろいで食事を楽しむというよりは、小腹が空いた時にサッと利用するのに最適な店と言える。

バーン・プータイ

千葉県成田市花崎町533
☎0476-23-0224
[月~金 15:00~23:00]
※土曜は 17:00~23:00

総合評価★★★★☆



カリフォルニアの美味しい水

アクアヴィル

AQUAVILLE

PURIFIED DRINKING WATER

500ml × 24本

478円

全国どこでも送料 420円

※一部地域、離島は除く



お手頃な価格でお届けします。
【携帯でのご注文はこちら】
フィットネスハウス
☎0476-89-3111

中古スチールデスク

大特価 1,000円

69cm 180cm 72cm

※直接引き取りに来られる方のみ



何にでも使えて便利 パレット

無料で使えます!

数に限りがありますのでお早め!



野毛平工業団地・清瀬工場近く(株)ロジハウス
TEL:0476-89-2227
千葉県成田市新泉14-3 (平日 9:00~19:00・土曜 12:00~17:00)

やすらぎの天然温泉

数々の上質な癒しで秋を満喫する



成田の命泉 大和の湯

yamato no yu

■入館料|平日: 700円
土日祝: 1000円
※小学生の入館料: 300円(大人同伴の入館の場合)
■営業時間|10:00~22:00
※年中無休(全館禁煙)

www.yamatonoyu.com
0476-28-8111

本館見学の入館はご遠慮ください



湯 成田の命泉

開放感あふれる露天風呂。
ジャグジーやサウナで、
心身ともにリフレッシュしませんか



食事をしながら天然温泉に入れる個室も準備しております
1時間 2,800円~
(予約をおすすめします)

癒 一流の施術師によるボディケア

ボディ・フット・アロマ、
カイロプラクティック、
各種専門施術師による
ケアで心身共にリラックス



優雅な空間で、
上質なバスサービス

食 料 理

淡路島から
日々直送

独自ルートで、とれたての魚を淡路島から
直接仕入れしています。入荷する魚は日々
変わりますのでご了承下さい。



黒鯛の刺身
〈800円〉

ふぐの唐揚げ
〈800円〉

あじ彩秋のワインフェスタ 11/17(土) 開催

2012年 山梨
ヌーヴォワイン試飲会 ¥500
14:00~16:00
良作となった今年の山梨ワインをテイスティング
多くのお客様にお楽しみいただくため、
一人3杯までとさせていただきます。
ご用意したワインがなくなり次第終了となります。



三澤農場ワインと
和食懐石のハーモニー
16:00~18:00 定員7名※要予約 ¥4,000
三澤農場自社栽培によるワインを
特別な和食懐石とともに味わいます



WEB サイト案内

日本シティジャーナルをご覧くださいありがとうございます。
本紙のバックナンバーはWEBサイトにすべてご覧頂けます。
連載中の歴史に関するコラムは最新情報に随時更新して
スペシャルサイト「日本とユダヤのハーモニー」にまとめて
あります。また、ご意見・ご要望等をお待ちしております。
FAX やホームページからお寄せ下さい。
日本シティジャーナル: <http://www.nihoncity.com/>
日本とユダヤのハーモニー: <http://www.historyjp.com/>

編集後記

久しぶりに群馬台のトピックに戻ってきました。そろそろ終盤と思うと、自分でも今度、何を書くことになるのだろうか、とワクワクします。というのも毎回、結論を既に持ちながら執筆している訳ではなく、書きながらひらめいたことを、自分自身で納得しながら記述しているのです。巷では様々な論争があるようですが、この紙上においては、できるだけ検証の可能な、そしてフレッシュな見方、切り口を提示しながら、わかりやすく群馬台を解説することができればと心がけています。

NCJ 編集長
中島 尚彦
1957年東京生まれ。14歳で米国に単身テニス留学。ワシントンビジネススクール卒業後、ロスアンゼルスにて不動産デベロッパーとして起業。米国ビジネス最前線で活躍する。1990年に帰国後、成田においてサウンドハウスを立ち上げる。現在サウンドハウス代表、日本シティジャーナル編集長を兼務。趣味はギターとマラソン、アイスホッケー、及び日本古代史研究。